

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

## ② 施設・事業所情報

名称：スカイキング	種別：地域活動支援センター
代表者氏名：村田雄一	定員（利用人数）：20名（現在21名）
所在地：〒240-0003 横浜市保土ヶ谷区天王町1-8-3 ラ・ポルト1F	
TEL：045-442-5046	
ホームページ：http://www.tomoni.or.jp	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：平成24年6月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 県央福祉会	
職員数	常勤職員： 2名 非常勤職員： 1名
専門職員	（専門職の名称） 名 介護福祉士
施設・設備の概要	（居室数）ホール、キッチン、バックヤード、更衣室男女、個室 （設備等）キッチン（オープン、電子レンジなど）、ホール（椅子・テーブル）、ロッカー、ベンチ

## ③理念・基本方針

横浜市の方針に則り、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」の理念である、三障がいの一元的支援と地域生活移行の障がい者の特性に基づき適切な支援に努めます。また、利用者さん及びご家族等からの相談に応じる等、地域生活を積極的に推進するため関係機関に働きかけることを運営の基本に置き、事業をすすめます。

## 【県央福祉会の理念】

- (1) 障がい児・者、高齢者のノーマライゼーションの実現から「ソーシャル・インクルージョン」（共生社会）を目指します。
- (2) 社会・福祉・介護ニーズに応えるべく先駆的で開拓的な事業を展開します。

## 【事業所としての方針】

- (1) 所長を始め全職員は、利用者さんが元気で明るく活動し、自ら積極的に行動ができるような、魅力あるプログラムが提供できるように取り組みます。
- (2) 健全な財務経営のために、下記の取り組みを検討し実践します。

- ① 利用者さんに選ばれる事業所作りをめざします。
  - ③ 給付費等に依存することなく、独自のビジネス体制を創設し取り組みます。
  - ④ 財務分析を行い、5年後・10年後を見据え、収支のバランスを図り、適切な予算執行ができる事業所経営を行います。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

- ・店舗営業に加えて、店頭での販売を実施しています。ピッツァだけでなく、日持ちする商品の開発にも着手し、工賃向上につながる取り組みを検討します。
- ・各種イベントを随時企画して、事業所の活性化を図るとともに、地域の方にも共に参加していただき存在感を高めます。
- ・お客様の少ない時間帯に、新商品の開発のため、利用者さんを交えた意見交換を活発に行います。実際に、期間限定の商品や販売会に向けた準備などを行い、売上の向上に繋がっています。
- ・地元商店街との関係性を深めるため、商店街及び町内会主催のイベント等に積極的に参加します。現在はイベントが殆ど中止されていますが、少ない中でも、できることを考えて取り組めるよう企画しています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和3年4月27日（契約日） ～ 令和3年12月21日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2018年度）

#### ⑥総評

##### ◇特に評価の高い点

##### 1) 個別支援計画は利用者の意向、希望が反映しています

事業所は今年度より新しいアセスメントシート「アセスメント結果票」を作成し、以前より利用者の意向、希望が反映できる個別支援計画の策定に取り組んでいます。従来のアセスメントシートは食事、入浴、排泄等の日常生活や対人関係、金銭管理等の社会生活の項目が中心でしたが、今回は「基本的ルール」「社会生活」の他に「作業態度」「作業遂行力」の項目を入れることで、より自立への意識を高めています。また、職員は月1回工賃の支払いの際に個人面接を行っています。そこでは、毎月利用者の作業状況の様子や変化等を聞き取ったり、作業活動の中で意向、希望が反映されているかを確認しています。見直しが必要な際には、職員間で検討し迅速に対応しています。計画作成担当者は面接等で利用者、家族からの意向、希望を聞き、会議で「アセスメント結果票」を基に職員や関係者の意見を検討した上で個別支援計画の策定を行っています。

##### 2) 職員間のコミュニケーションにより利用者との信頼関係を築いています

本人が通ってみたい、働いてみたいと思う気持ちを尊重し、いかなる障害を持つ人も受け入れ、やがて就労に繋げることを目標に支援を行っています。作業所は、管理者を含め3人の職員で運営していますが、少人数だからこそその強みや弱みもある中で最も重要なことは、常にコミュニケーションを図ることとしています。利用者の行動データから、今、必要とされる支援について意見交換を行い、利用者の意欲に繋がる取組を全て共有しています。一人ひとり異なる障害を持つ利用者への支援は多岐にわたり、日常的に職員の幅広い分野での高い専門性と人間性が求められます。職員は、常に自己研鑽・自己啓発を行い、利用者とのコミュニケーションを図りながら信頼関係を築いています。

##### ◇改善を求められる点

##### 1) 作業工程の手順

ピザの製造工程、軽作業、清掃の手順など、作業所でのルールは、写真や番号、フローチャートで表示するなど、利用者が次の作業を分かりやすいように工夫しています。可能であれば所内でのルーチン全体を写真やイラストで表示し、利用者がより分かりやすく作業を進めることのできるよう表示方法の検討が期待されます。

#### 2) 職員のポテンシャルの維持

事業所は職員の専門性の知識、技術の向上、人間性の向上に向けて、職員の生活条件を整えています。職員のポテンシャルの維持に繋げるため、サポートの配慮等働きやすい環境整備が期待されます。

#### ⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回、自己評価の時点で特に力を入れて取り組んできたこと、まだこれから整備をしていく必要があることを客観的に見直す良い機会となりました。また、ご利用者に対しても満足度調査が行えていなかったため、実際に皆さんがどのように感じられ、どのようなニーズをお持ちなのか、面と向かって言いにくい点などもご記載いただいたので、今後の事業所運営に活かしていけるように努めたいと考えています。

課題として挙げられた作業指示の手段などは現在も模索しながら取り組んでいるところです。利用者さん達がどのようにすれば自立して活動に取り組めるようになるか、職員だけでなく利用者さんにも協力していただけるよう働きかけていきます。

事業所運営においても、小規模の事業所であるため、少人数の職員で共有がしやすいといったメリットがある反面、他との交流が少なくなり、孤立しやすいといったデメリットもありますので、他事業所との連携にも力を入れていきたいと思っております。

#### ⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり